

第3章 体力向上マネジメント

2016年1月に文部科学省が策定した「次世代の学校・地域」創生プランでは、複雑化・多様化する学校の課題への対応や、子供たちに必要な資質・能力の育成のための教職員の指導體制の充実に加え、学校において教員が心理や福祉等の専門スタッフと連携・分担する体制の整備や、**学校のマネジメント機能の強化により、学校の教育力・組織力を向上させ、学校が多様な人々とつながりを保ちながら学ぶことのできる場となるようにする。**

と示されています。つまり、学校における児童生徒の体力向上を目指す取組に関してもマネジメント機能を強化していく必要があります。

本章では、体力向上に関するマネジメントの在り方について「Q&A」形式で説明していきます。

1 そもそも「マネジメント」って何？

さまざまな資源・資産・リスクを管理し、効果を最大化する手法のことです。

2 体力向上のマネジメントってどんなこと？

学校にある資源（人・もの等）を全て活用して、子どもの体力向上を図っていくことです。大きく分けると下記の2つに分類できます。

- ① 体力向上に向けた学校組織マネジメント
- ② 体力向上に向けたカリキュラム・マネジメント

2-① 学校組織マネジメントは、だれが、どんなことをするの？

学校組織マネジメントを進めていく上で大切なことは、以下のとおりです。

ア 体力向上に向けた学校組織マネジメントにおける **3つの共通理解項目**

【目的】 児童生徒の確かな成長を保障することであり、そのために質の高い教育を提供することです。

【対象】 学校運営に影響を与える要素・要因すべてを対象とします。

【実行者】 校長・教頭等の管理職だけでなく、全教職員で取り組んでいくべきものです。

イ 体力向上に向けた学校組織マネジメントにおける **3つの視点**

変える さまざまな環境の変化に応じて自らを変えていく必要があります。特に学校は、これまでの成功体験にとらわれ、現状維持に陥りやすい傾向があります。教職員一人一人が「変える」ことの必要性を理解し、難しさを克服して、学校を変える主体としての役割を果たすことが必要となります。

見つける 学校に存在する体力向上に関する「強み」や「弱み」の中から有効な資源や手立て、解決すべき課題を「見つける」ことが必要です。学校の場合「弱み」に目がいきがちですが、「強み」にも目を向け「強み」を生かす方法、「弱み」を「強み」に替える方法を工夫することに留意することが大切です。

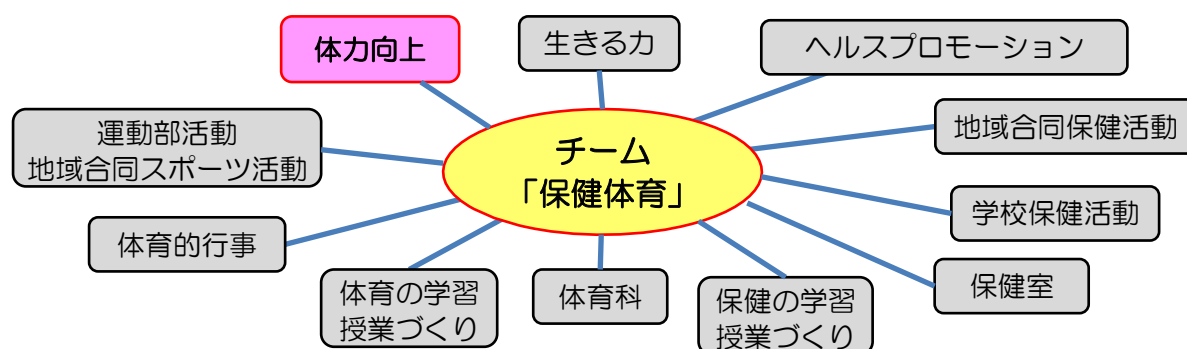
つなぐ これまでの学校は、一人一人の教職員の頑張りによって支えられてきた側面が強くありましたが、これからは、個に頼るのではなく組織として持てる力を最大限に発揮していかなければなりません。そのために「教職員と教職員を」「教職員と保護者を」「教職員と地域を」「保護者と地域を」つなぐことが重要となります。

2-② 体力向上に向けたカリキュラム・マネジメントは、どんなことをしていけばいいの？

次期学習指導要領には、以下の3つの側面から、教育課程に基づき、組織的・計画的に教育活動の質の向上を図っていくものとして「カリキュラム・マネジメント」を推進していくことが示されています。

- ① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた**教科横断的**な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列しておくこと。
- ② 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し実施し、評価して改善を図る一連の**PDCAサイクル**を確立すること。
- ③ 教育内容と、教育活動に必要な**人的・物的資源**等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら**効果的に組み合わせる**こと。

このことを考えると、体力向上に関してのみマネジメントを行うのではなく、下記の図のイメージのように、「チーム保健体育（仮題）」としてその他の理念を浸透させていくことを同時に行っていくことが大切です。



質の高い体力向上のマネジメントを進めていくために、下記のようなR-PDCAサイクルに基づいた各学校での取組を考えていきましょう。

校内での体力向上の取組

学校における体育・健康に関する指導は、児童生徒の発達の段階を考慮して、**学校の教育活動全体を通じて**適切に行うものとする。

R

児童生徒の実態把握を全教職員で

- ・学校全体の計画
- ・各学年の計画
(各教科・特別活動等)

P

・・・体力調査や質問紙調査等の各種データ等を活用し、児童生徒の実態を踏まえた計画を立てましょう。

D

・・・立てた計画（体力向上の取組）を実行しましょう。

C

・・・体力調査や質問紙調査等の各種データ等から取組や計画そのものが適していたのかを点検（評価）しましょう。

A

・・・点検したことをもとに、学年や学校全体の教職員で改善に向けて成果や課題などを協議し、次の計画を立てましょう。

3 具体的な体力向上に向けたカリキュラム・マネジメントの指導例は？

体力向上カリキュラム・マネジメントの指導例として、小学校における年間指導計画例を下記に示しました。

各学校の児童・教職員・保護者や地域の実態に応じて組み換え等を行い、工夫した指導計画作成を手がけましょう。

小学校年間指導計画例(立 小学校)

児童の実態	【児童の実態】○運動好きな児童が多い ▼日常的な運動習慣 ▼外遊びをする児童の減少 ▼運動経験に乏しい 【学校の実態】○保護者・地域は協力的 ▼遊具が少ない 【教師の実態】○熱意に溢れた教師が多い ▼外遊びの方法を知らず、教えることができない若手教師が多い
実態をふまえた体力向上の目標	主体的・日常的に運動をする児童の育成
目指す児童像	◎休み時間や放課後に積極的に運動に取り組む児童「意識実態調査において90%以上の児童が達成！」 ◎運動が好きで運動が得意と感じられる児童「新体力テストで総合評価A+B+C児童の割合80%以上の児童が達成！」
学年	週 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 31 2 32 33 34 35
第1学年	102 体づくり運動 [6] 走・跳の運動遊び(走の運動遊び) [7] ゲーム(ボール投げゲーム) [8] マットを使った運動遊び [9] 水遊び(水に慣れる遊び) [10] 表現リズム遊び [6] 走・跳の運動(跳の運動遊び) [6]
第2学年	105 体づくり運動 [6] 走・跳の運動遊び [6] 表現リズム遊び(リズム遊び) [6] ゲーム(ボール投げゲーム) [8] マットを使った運動遊び [9] 水遊び(水くもる遊び) [10] 表現リズム遊び(表現遊び) [6] 表現リズム遊び(表現遊び) [6]
第3学年	105 体づくり運動 [6] 走・跳の運動(かけっこ・リレー) [7] ゲーム(ボール投げゲーム) [8] 器械運動(マット運動) [6] 水遊び(水くもる遊び) [10] 表現リズム遊び(リズムダンス) [6] ゲーム(ネット) [6]
第4学年	105 体づくり運動 [6] ゲーム(ネット型) [6] 走・跳の運動(かけっこ・リレー) [7] 器械運動(マット運動) [6] 水遊び(水くもる遊び) [10] 表現リズム遊び(リズムダンス) [6] 走・跳の運動(高跳び) [6]
第5学年	90 体づくり運動 [5] 陸上運動(短距離走・リレー) [6] ボール運動(ゴロ型) [8] 器械運動(マット運動) [6] 水遊び(水くもる遊び) [10] 表現リズム遊び(リズムダンス) [6] 陸上運動(ハードル走) [6]
第6学年	90 体づくり運動 [5] 陸上運動(ハードル走) [6] ボール運動(ネット型) [7] 器械運動(マット運動) [6] 水遊び(水くもる遊び) [10] 表現リズム遊び(リズムダンス) [6] 陸上運動(短距離走・リレー) [6]
特別活動(学級活動・児童会活動・学校行事等)	業前運動の実施(毎週水曜日8:15~8:40) ※各校体操→持久走→学年・学級別の運動/運動遊び ★長縄大会などの校内ミニ体育大会等の 縦割り学習による活動「まかよタイム」の実施(毎月第3木曜日のロングの昼休みを使用しての実施)外遊びの時間+清掃活動 徒歩遠足 業間運動① 5月3週目 ボール投げ 運動会 運動委員会による日常的活動・・・ポスターづくり/遊びの紹介掲示板の作成/オリジナル教材の作成(ドジャイロ・めんこ・紙鉄砲等)低学年児童への 歯磨き指導・手洗い/うがい行動活動/保健委員会による健康生活推進に関わる情報提供 新体力テスト① 5月4週目 卒業教諭(技師)による卒業指導
総合的な学習の時間	「見つめなおそう！自分の体力」[6年] (24時間) ◎自分自身を見つめ、健康/体力の保持増進の必要性に気付くとともに、体力を高めるために、自分ができることを考え、進んで活動していく中で、生涯スポーツの大切さに触れさせ、資質を育てる。
クラブ	運動系クラブ活動(4・5・6年生)・・・6年生を中心に運動の特性を味わいながら、異年齢の集団が楽しく充実した時間になるよう、楽しみ方やクラブの
その他の教科	【生活】1・2年 異学年 交流活動 【音楽】2年 「あなたがたどこぞ」・ロンドン橋 【国語】2年 「スズメ」 ※役替演技 【算数】6年 速さ ※実際に走って求 【図工】全学年 ※表現活動 【家庭】高学年 卒業バランス 【道徳】低学年 みんな遊び 【国語】全学年 ※「書く」活動(年間を通して)
地域・家庭との連携(家庭・地域社会・行政等)	放課後遊びの実施【PTAとの連携(竹馬や一輪車の設置などのお手伝い)・放課後も運動クラブ【地域との連携】 学校だより/体力向上だよりの発行(毎月1回月末発行)★校内の体力推進に関わる取組、新体力テスト実施のポイントの紹介や自宅での体 懇談会・個人面談の活用・・・新体力テストの結果について話題にし、意識の共通理解を図る。/授業参観の活用・・・親子運動教室等の実施 学校公開・授業参観 体育の授業 児童・保護者アンケート「生活リズムチェック」 夏季休業中水泳指導 プール開設 学校公開・授業参観 地区運動会参加 公民館主催行事への参加 地区祭事への参加
異校種連携(幼小、小中、同校種等)	中学校区 小中合同研修会 幼保小交流会 中学体育祭(統整競技参加) 競走運動会参加 未就学児 交流活動 未就学児 交流活動
PDCAサイクルによるマネジメント	(P) 計画の周知 共通理解 (D) 計画の実施 (C) アンケート調査 成果の抽出 (A) 反省集約 2学期の計画 (R) 学校評価 職員員 (P) 計画の周知 共通理解 (2学期) (D) 計画の実施 (P) 計画の周知 (D) 計画の実施 (A) 反省集約 来年度の計画作成 (C) 新体力テスト②の アンケート調査
組織マネジメント	校内研修:新体力テスト測定方法 運動する場の常設(ライン計画・教材配置・場の設定 等)体育部 予算運用 必要な用具の計画的な購入(ボール等) 管理職・事務 体育部活動の充実(部会内研修の実施・施設点検・備品/消耗品管理 等) 学年会・ブロック会の充実(体育授業・体力向上に関わる体育的活動に関する討議を積極的に行う) 主任・体育部

上記の指導計画例は、熊本県教育委員会ホームページ「子どもの体力」で Excel ファイルにて掲載しています。ぜひご活用ください。